

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会議の名称	第1回総合計画及び地域創生戦略委員会小委員会	
開催日時	令和2年10月15日（火）14時00分～16時00分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 401・402・403 会議室	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委員 氏 名	（出席者） 林 昌彦、山田 寛、高橋美佐子、 宮辻弘学、西山大作、本條 昇、 円増万司、岡本一也、西川彩児	（欠席者） 古根川淳也
事務局 氏 名	企画総務部：前田部長、水口次長 企画総務部地域創生課：西嶋課長、清水係長、前田係長、白畑主査、 鳴濱主事 産業部ひと・はたらく課：西岡課長、岸元副課長	
傍聴人数	0名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（協議事項） （1）戦略事業評価について 1 実践型インターンシップ推進事業【資料⑦】 （2）第三次行政改革大綱の1年延長について【資料⑧、⑨-1、⑨-2】	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） 林 昌彦 委員長（確認日 10月26日）	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>■開会</p> <p>■あいさつ</p> <p>総合計画及び地域創生総合戦略は策定して終わりではなく、隙間なく効果的に進めていくために、今日は1つの事業の評価をすることとなります。</p>
事務局	<p>■小委員会の役割について (資料①～⑥に基づき説明)</p>
委員長	<p>ここまでにつきましてご意見・ご質問はありますか。</p>
委員一同	<p>意見なし</p>
委員長	<p>このような前提を踏まえて今日の協議事項に入ります。後程、先程の説明部分で質問・意見があれば、遠慮なく申しただければと思います。 それでは、協議事項に入っていきたいと思います。</p>
事務局	<p>■協議事項 (1) 戦略事業評価について</p>
事務局	<p>実践型インターンシップ推進事業 (資料⑦、参考資料に基づき説明)</p>
委員長	<p>基金からいくら支出して、何に使われたのか、基金ですべて賄ったのか、基金以外にどういう財源が使われたか、受け入れた企業の負担はいくらだったか、コストを説明ください。</p>
事務局	<p>資料⑦の8ページに収支決算書を載せています。こちらは、人財力会議としてインターンシップの実施とコーディネーター養成講座の費用です。 当初、ほとんどの費用を基金で活用していこうとしていたが、概ね半分は地方創生推進交付金を活用しています。支出は、人財力会議、受入企業が座学やマッチングイベントへ参加するための旅費、受け入れる学生の保険代、ETIC への委託料です。委託料の内訳には、コーディネーター養成とマッチングイベント参加料が含まれています。旅費を除いた半分の費用は交付金で、残額を基金から捻出しています。 受入企業の費用は、資料の32ページにあります。アパートの賃貸費用、</p>

	<p>光熱費、1日500円の活動費、学生が東京から来る交通費、日用品代金、賃貸費用に関しては、インターンシップを受け入れる市の補助金事業があり、半分は市が負担しています。</p>
委員	<p>基金については平成30年4月1日に創設されたものだが、これからいくら積み上げていくのか。原資は何か。今後、年度計画は作成されるのか。</p>
事務局	<p>基金の積み立ての具体的な計画はありません。当初に1,000万円積み立てており、今回、240万円程取り崩しているので、760万円残っています。原資は市の一般財源です。計画としては、1年に1事業実施できればと考えていますが、今のところ予定はありません。民間の発案から事業に繋げていこうとしており、事業の提案が出てくれば、本小委員会でご意見をいただきたいと考えております。</p>
委員	<p>通常の前算でもできる事業のように思うが、わざわざ基金を積み立ててした主旨は何か。</p>
事務局	<p>通常の前算の枠組みでも可能であると思うが、基金があることを前提にすることによって、色んな提案をいただきやすいので設置しています。</p>
副委員長	<p>旧戦略委員会のメンバーであるが、旧戦略委員会では懸念する色んな意見があったことを覚えている。基金の主旨は雇用創出、人材確保、定住促進であり、懸念としてはこの事業は基金の主旨に沿った効果を期待されるものなのか、この事業が基金の主旨に沿ったものなのか、インターンシップを受け入れた企業は良くなっても1企業に終わってしまい、地域全体に波及するものなのか、地域全体の活性化に繋がるのか、それが明らかではないと思う。地域全体の活性化を実現するためにはコーディネーターの役割が大きく、ノウハウを蓄積し、継続的に各企業に共有することで企業が自社の経理に役立てる必要があるのではないか、という意見があった。それを踏まえると、参加企業が1社でコーディネーターも当初の予定人数にも達していないし、コーディネーターの人選が流動的で確保が難しいとなれば、インターンシップ推進事業が成功であったかどうか判断するには難しいのではと思うが、どう評価されているのか。</p>
委員長	<p>平成30年3月18日の委員会で色んな議論があったが、まず、やってみて、結果を見て評価をしようとなった。今いくつかの本質的なところの質問があ</p>

事務局	<p>ったので、お答えできますでしょうか。</p> <p>副委員長がおっしゃられている通りです。昨年1年間やってみて成功したかは明確ではないし、実際に企業1社、コーディネーター2名と、役割を果たせたかは分かりません。KPIについて、直接的効果は単年では現れないし、これで終わればただ1企業を支援したにすぎないので、将来的にどれくらいまで広げていけるかを考えていかなければならないし、単にインターンシップをするだけで終わらないようにすべきだと考えております。まずは数社関心を持っていただいている企業に実践型インターンシップの事例を作ってもらい、事例が増えていくなかで他の企業に対してもノウハウを波及させていくことが必要であると考えております。</p> <p>コーディネーターとして学生と接していくなかで地域創生、地域活性化、都市から地方への流れがトレンドとなっており、敏感な学生が多くいます。学生の意向を聞いてみると、自分たちが企業の中に入って、企業の新しい取組姿勢や企業の強みを自分の経験にしていきたいという想いを持っています。学生のニーズや企業側の考えがコーディネーターに情報が集まってくるので、今は関東の学生が対象ですが、今後、県内や関西圏の学生とのパイプや関わりを作り、地域に人材を確保するためのツールとして実践型インターンシップを活用していきたいと考えております。</p> <p>人材不足の状況があり、企業と繋がりを持たすためにコーディネーターとしては地元の高校生等にビジネスフェアや合同企業説明会を実施しているが、単にイベントをするのではなく、事前に学生、企業側に情報提供をしてインターンシップ事業で培ったコーディネーターのノウハウを生かしていくべきであるし、生かしていかなければならないと考えております。引き続きインターンシップの実績を積み上げていくことが必要であり、短期で地域が変わることは難しいが、長期で見て地域活性化、人材確保に繋げてきたいと考えております。</p>
副委員長	<p>理念や目的は素晴らしく民間の企業がやっていたら良いが、行政の場合は税金を財源としてやるので、効果がなければ見切りをつけなければならないのではないか。目処を持ってやっているのか。効果があるまでやるのか。</p> <p>実践型インターンシップを行政の中に入れることはできないのか。観光事業であれば、外部からの受け入れをすることによって良いアイデアや活力が生まれるかもしれないし、人が定着するかもしれないと思うが、そのような発想はあるか。</p>

事務局	<p>事業費については、昨年は基金や推進交付金を活用しております。今年度、来年度以降については、参加企業があった場合に ETIC のマッチングフェア等の費用がかかるが、参加企業がいなかった場合は費用はかからず、コーディネーターの役割を担う私たちがいかに企業に発信して、実践型インターンシップ事業に取り組む企業を増やすことができるかにかかっています。</p> <p>昨年度の実践型インターンシップ事業では、インディアンフルーツ販売について、目標の 20 本の販売ができ、その後も web 売上が 10 倍になったので、一定の成果がでております。売上だけでなく、社内の仕事の作り方、プロジェクトへ向かう姿勢に効果が現れたことを思うと、事例を紹介し他の企業にも取り組んでもらいたいと考えおります。若者の意見を聞くことで仕事の作り方が変わり、新たな発想を取り入れて 1 つのプロジェクトに挑戦することが会社の成長に繋がると思い、結果を伝えていくのも役割だと考えております。今年、来年を目処に事業をしっかりと伝えて活動を知ってもらい、他の企業に広めていくことで、継続するかどうかご意見をいただき、判断することが必要だと考えております。</p>
事務局	<p>今回得たコーディネーターの役割はゼロになるわけではないので、他の事業にも生かせると考えております。ETIC のマッチングイベントに参加すれば費用がかかるので、将来的には自主的にそういう場を提供できれば、基金でいつまでの実践型インターンシップ事業に対する費用を支出し続けるのかという議論は発生しないと考えております。企業の負担はあると思いますが、近い将来、体制づくりができるかどうか判断基準になると考えております。</p> <p>行政に学生を取り入れてはという意見については、観光協会等の新しい取組、販売戦略等に希望する学生はいると思いますが、学生の多くは、企業のやり方や仕組みを学びたいという想いがあります。学生とのニーズがマッチすれば可能と思いますが、これから検証していく必要があると考えております。</p>
委員長	<p>説明会に企業を募集して 41 社が来られ、実際応募は 1 社だったということは、企業にとっては負担だと感じたのではないかと。また、複数社あった場合、どのような選考基準を設けたのか。</p> <p>今回、成功したのは web サイトのリニューアルだったからではないかと思いますが、若者のどのような力を活用するプロジェクトならば成功するのか。そのノウハウがあれば、取り組む企業も若者が来てくれそうな魅力あるプロジェクト作りに繋がるだろうし、企業と若者をコーディネートするのに</p>

事務局	<p>必要なことだと思います。企業側から見ると問題があったのか、もしあったなら解決策を含めて回答をお願いします。</p> <p>企業側はインターンシップという採用に繋がるというイメージがあり、想像していたのと違うので、自社に当てはめて取組を考えるまでに至らなかったと感じています。実績を見てもらうことが必要だと考えており、3月に事例発表を行い、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあってたくさんの企業には声掛けできなかったが、4社に来ていただき、当てはめれば生かせる部分があるのではないかという声も聞いています。</p> <p>会社が複数あった場合の選考の基準については、人財力会議では、違う企業に参加してもらいたいのと、企業側がどれくらいやってみたいものなのかプロジェクトの内容を見て、学生が入って活躍できるかどうかを基準としております。学生に人気があるのは、広報や戦略的な取組なので、マッチングができるかどうかを総合的に見て判断します。多くなった場合でも、企業のやる気があり、学生が活躍できるプロジェクトに変更できるならば、受入企業を増やす等の選択肢も考えております。</p>
事務局	<p>創設時は選考基準を持っていなかったが、学生が本気になるワクワクするようなプロジェクトを持っているかをヒアリングで確かめ、今年度より募集時には伝えようと考えております。経済産業省の統計では、中小企業で学生が魅力を感じるのは会社の雰囲気、やりたい仕事ができるかということであり、本気の挑戦をすることで魅力や会社の組織も高まると考えております。</p>
事務局	<p>プロジェクトの目標・ゴールが明確な方が学生の関心が高く、今回は広報戦略がはっきりしていたので、条件に合った学生を採用しております。</p>
委員長	<p>企業側は採用に繋がるインターンシップをやりたいという実情があります。長期のインターンシップにおいて就職を意識した学生が来てくれるのか。そうではない学生を受け入れて、別の意味を見出して今回のようなマッチングを行うような事業を継続していくのか。そこにミスマッチがあると、受け入れた企業がこんなはずじゃなかったとなりがねないので、事前にお互いが何を求めているかを理解するのが大切だと思います。採用に繋がるインターンシップを直接追わない方がよいのではと感じます。</p>
事務局	<p>採用型のインターンを希望される企業は多いが、企業説明会を就職採用の人手不足の解決策としています。今年度、商工会で内定型のインターンシッ</p>

委員	<p>プを実施しており、経営革新と採用型を分けて取組を進めつつ、実践型インターンシップに取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>資料⑤-1にある総合戦略の4本柱のKPI達成度は【住む】5項目、【生み育てる】3項目、【まちの魅力】3項目、【働く】1項目の達成となっております。【働く】の目的は、雇用の創出と就職支援が大きな項目となっており、インターンシップ事業が悪いということではないが、戦略の目標を明確に出せるような事業にする必要があるのではないか。例えば、成果の指標にこの事業で何人雇用があったのかを目標設定する必要があるのではないか。副委員長からいつまでやるのかという質問があったが、要綱や要領で3年や5年周期の検証期間を設けるのはどうか。</p>
委員長	<p>一度始めたら止められないというわけではなく、勇気を持った撤退もありなのかなと思います。ただ、撤退するとなった場合に単に失敗で終わるのではなく、次の事業にどう生かすかを考える必要があると思います。活発な企業があるという情報発信ができたことはプラスですし、1つの事業で成果を出すのは期待できないと思うので、他の事業と組み合わせていくことが大切であり、行政というよりは企業に積極的に関わってほしいなという想いはあります。</p>
委員	<p>遍く広くではなく、チャレンジが前提となっており、先程から勇気のある、本気という言葉が出ているが、そのような事業者でないとハードルを越えられないのではないか。地域活性化の題目の中では、効果を疑われてしまうのではないか。そういった事業内容であることを踏まえて実施することは良いとは思いますが、基金の主旨に合っているのかを検証しないといけないと感じます。</p>
委員長	<p>協議事項の1つ目を終わります。次に協議事項2つ目に移ります。</p>
事務局	<p>■第三次行政改革大綱の1年延長について (資料⑧、⑨-1、⑨-2に基づき説明)</p>
委員長	<p>必ずしもすべての計画の期間が一致しているとは限らないが、行政改革大綱は総合計画や地域創生戦略と一体して捉えて考えていくものなので了解をしたいと思います。いかがでしょうか。</p>

委員一同	意見なし
委員長	少し時間があるので、他に何かありますか。
委員	資料⑤-1 でK P Iの進捗状況の報告があるが、他の地方自治体では記号化をしている。100%は◎、90～100%は○、70～90%は△、70%未満は▲といったように可視化し、分かり易くしてほしい。
事務局	達成している項目は14項目、達成はしていないが近いものは12項目となっています。
委員長	全体を見たとき時に、いくつの目標で達成しているかを記載してほしいと思います。 他にありますでしょうか。無いようでしたらここで終わりたいと思います。
副委員長	<p>■閉会</p> <p>本日お集まりいただきました委員の皆様は、全体の委員会のメンバーでもありますし、小委員会のメンバーでもあります。毎月、委員会が開催されるスケジュールになっていますが、参加していただきありがたく思っています。小委員会におきましては、計画で定められた事業について推進状況並びに評価をしていくこととなります。P D C Aサイクルで言えば、チェックとAの改善に向けての協議を担う小委員会になります。今日も議論がありましたが、実際、決めた事業を絶対やらなければならないわけではないので、P D C Aサイクルをはやく回していくことによって当初目論んだ事業の主旨と違うとなれば、撤退するのか改善するのかを協議することが、行政改革にも繋がっていくのではないかと思います。そのような観点からこの場で皆様のご意見をいただいて協議していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。本日はありがとうございました。</p>